

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	十日町市発達支援センター		
○保護者評価実施期間	R7年 12月 8日		～ R8年 1月 16日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	78名	(回答者数) 74名 (回収率：94.9%)
○従業者評価実施期間	R7年 12月 5日		～ R8年 1月 16日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9名	(回答者数) 9名
○事業者向け自己評価表作成日	R8年 2月 17日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者からの評価として ・こどもの活動等のスペースが確保されていること ・清潔で、こどもたちの活動に合わせた空間になっていること などが良い点として評価されており、安心感を持って利用してもらうことができている。	視覚刺激の少ない環境設定や支援内容に合わせた遊具設定をしている。	今後も一人一人の課題を分析し、個々に合わせた支援を行えるような環境設定を心がけていく。
2	児童発達支援計画に沿って、支援内容について保護者へ丁寧に説明し、共感的な支援を行っている。また、保護者に寄り添って、親身になって相談対応を行っている。	支援内容を分かりやすい言葉で記載し、丁寧な説明を行い、活動内容の意図等についても、説明することを心がけている。 相談事業所と連携を取りながら、保護者の悩みや不安について、相談対応を行っている。	引き続き、支援内容について丁寧な説明を行うとともに、各関係機関と連携を図りながら、保護者に寄り添った相談対応を行う。
3	就学に向け、教室の活動内容の検討や、保護者への相談・サポートをしている。	就学相談説明会や保護者向け研修会を実施し、就学に向けての情報提供を行っている。 就学移行支援会議を開催し、支援内容の引継ぎを実施している。	今後も引き続き保護者への情報提供と、就学に向けた悩みや不安に対してのサポートを行っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族同士の交流へのニーズが多いことがうかがえる。特に個別教室利用児の保護者が、他の保護者と交流する機会が限られている。	1/3が個別教室の利用形態であるため意図的な交流の場を設定する必要がある。	個別教室利用者を含め、教室の合同企画など、保護者同士の交流が図れるよう設定し周知していく。
2	非常時等の対応について、全員に重要事項説明書等を用いての説明を行っている。取組についてもおたより等で周知している。しかし、「わからない」の回答が多いため改善が必要だと思われる。	教室の実施時間と非常時対応訓練時間が合わず保護者が非常時対応訓練に参加する機会がないため、取り組み内容が伝わりにくい。	職員の非常時対応訓練（避難訓練や感染症対策訓練等）の様子をおたより等で周知していく。 教室利用児の保護者に対して訓練等の実施状況を口頭でも具体的に伝え周知していく。